

平成30年度

和泉市外部評価委員会 答申

平成30年6月

和泉市外部評価委員会

(和泉市まち・ひと・しごと創生総合戦略及び和泉市総合  
計画に係る事務事業の評価等に関する外部評価委員会 )

## 第1 はじめに

和泉市まち・ひと・しごと創生総合戦略及び和泉市総合計画に係る事務事業の評価等に関する外部評価委員会は、和泉市まち・ひと・しごと創生総合戦略（以下「総合戦略」という。）及び和泉市総合計画に係る事務事業に関して、行政外部の第三者視点からの評価、検証等を行うため設置している。

平成26年に「まち・ひと・しごと創生法」が施行され、国と地方が一体となって、地方創生の取組みを推進しており、和泉市においても、国交付金を活用し、地方創生に資する事業を平成29年度に実施している。

国交付金を活用した事業については、事業の目標となる指標（重要業績評価指標（KPI※））をあらかじめ定め、事業終了後には事業の効果検証を行うことが求められており、この効果検証について市長から本委員会に諮問を受け、評価を実施した。

この答申は、地方創生推進交付金を活用して平成29年度に実施した事業に関して、委員会が事業担当課との質疑を行い、当該事業の総合戦略への有効性等について判断した評価結果をまとめたものである。

※KPI……Key Performance Indicator の略

## 第2 評価対象事業

評価対象事業は、「第4 評価の結果」にある「平成29年度 地方創生推進交付金事業 評価結果一覧及び個別評価」に掲げる3事業である。

## 第3 評価の方法

事業担当課から提出された事業評価シート及び補足資料並びに委員会での説明に基づき、次の3つの事業について、2つの観点から、検証及び評価を行った。

### （1）評価対象事業

- ①美術館を核とした賑わい創出・交流人口拡大事業
- ②住み慣れた地域で暮らし続けるための拠点づくり事業
- ③新商店街におけるにぎわい創出事業

### （2）事業の評価項目

- ①平成29年度の取組に対する評価
- ②平成29年度の取組を踏まえた今後の事業実施方針に対する評価

## 第4 評価の結果

平成29年度 地方創生推進交付金事業 評価結果一覧

	評 価 項 目	
	①取組に対する評価	②今後の事業実施方針
取組事業名	1 取り組んだ内容は、有効であった  2 取り組んだ内容は、有効とは言えなかった	1 効果的な取組を実施していることから、さらに発展させるべきである（事業拡大）  2 特に見直しの必要はなく、現在の取組を継続すべきである（事業継続）  3 さらに効果的な取組を検討し、内容を見直すべきである（事業見直し）  4 効果がないため、実施を中止すべきである（事業中止）
①美術館を核とした賑わい創出・交流人口拡大事業	1（有効）	3（事業見直し）
②住み慣れた地域で暮らし続けるための拠点づくり事業	1（有効）	3（事業見直し）
③新商店街におけるにぎわい創出事業	1（有効）	3（事業見直し）

<b>事業名</b>		① 美術館を核とした賑わい創出・交流人口拡大事業
<b>取組に対する評価</b>		
<b>評価</b>	①	取り組んだ内容は、有効であった
	2	取り組んだ内容は、有効とは言えなかった
<b>上記の意見・理由</b>	<p>○タウンマガジンの発刊やイベントの開催など、ミュージアムタウンの周知に複合的に取り組んだことは効果的であった。また、タウンマガジンは、美術館所蔵品の紹介にとどまらず、地域の歴史や飲食店など地域の魅力が伝わる内容になっている点も評価できる。</p> <p>○イベント「久保惣“大でき”美術館」の開催は、美術館のあるまちとして周知が促進されたほか、地元小学校と協働したことにより地域交流にも寄与したと考える。</p> <p>○久保惣記念美術館のホームページやパンフレットを多言語化したことは、インバウンド対応に有効な取組みであった。</p>	
<b>今後の事業実施方針</b>		
<b>今後の方針</b>	1	効果的な取組を実施していることから、さらに発展させるべきである（事業拡大）
	2	特に見直しの必要はなく、現在の取組を継続すべきである（事業継続）
	③	さらに効果的な取組を検討し、内容を見直すべきである（事業見直し）
	4	事業実施を中止すべきである（事業中止）
<b>上記の理由</b>	<p>○現状においては、ミュージアムタウンエリア全体の活性化にまでは至っていないため、今後も事業を継続する必要があるが、事業効果の検証が可能でエリアのブランディングにつながる新たな取組みが必要であると考えます。</p> <p>○パブリックアートの制作や特産品の開発については、エリアのブランディングや観光客の呼び込みにつながるため、地域資源（歴史や産業等）を活かしたコンセプトを設定することが重要である。</p> <p>○広域観光路線実証実験バスについては、急行便創設後も利用者数が増加せず、経済波及効果も見込まれない場合は、事業を廃止するべきである。</p> <p>○美術館のパンフレットやホームページを多言語化したことに加え、展示作品の説明表示も多言語化し、インバウンド対応の充実を図られたい。</p>	
<b>委員会のその他意見</b>		
<p>○エリアの活性化には、エリア内の移動手段を確保することが不可欠と考えることから、引き続きその実現に向けて取り組まれない。</p> <p>○美術館は、企画がよければ来館者を増やすポテンシャルを有していることから、エリアの核となる施設として、集客の見込める展示会や定期的なイベントに取り組まれない。</p> <p>○パブリックアートについては、和泉市の地場産業を活用するなど、ロコミやブログ、SNS等で拡散してもらえ展示品の制作に取り組まれない。また、エリアの回遊性の向上につながるような工夫についても検討されたい。</p>		

事業名		② 住み慣れた地域で暮らし続けるための拠点づくり事業
取組に対する評価		
評価	①	取組んだ内容は、有効であった
	2	取組んだ内容は、有効とは言えなかった
上記の意見・理由	<p>○少子高齢化のなかで、住み慣れた地域で生活し続けたいと願う住民のために、住民同士の支え合いを支援する事業の社会的意義は大きく、活動団体が新たに発足したことは大きな成果といえる。</p> <p>○人材育成のための研修として、他市町村の活動団体の先進事例を紹介したことは、同じ活動に取り組む者同志の交流も図ることができ、活動者の意欲向上に寄与したと考える。</p>	
今後の事業実施方針		
今後の方針	1	効果的な取組を実施していることから、さらに発展させるべきである（事業拡大）
	2	特に見直しの必要はなく、現在の取組を継続すべきである（事業継続）
	③	さらに効果的な取組を検討し、内容を見直すべきである（事業見直し）
	4	事業実施を中止すべきである（事業中止）
上記の理由	<p>○活動団体の設立を推進するために、市が主体的に啓発や支援を継続することが重要である。「ちょいず」等の補助制度へ誘導するだけでなく、市が積極的に地域に入って、地域固有の課題について支援を行うなど、新規団体の設立につながる取り組みを実施されたい。</p> <p>○本事業における補助金は、本年度で終了とのことであるが、新たな団体が設立される場合には、相応の費用負担も想定されることから、必要に応じて市が補助を行うことも必要と考える。</p> <p>○発足した団体の活動を維持し、団体の提供サービスを充実することも重要であることから、各団体の人材確保やノウハウの蓄積に向けた研修を開催するなどの取組みについて引き続き実施する必要がある。</p> <p>○高齢化の進展に伴い、交通手段を確保することは重要であるが、デマンド型交通実証運行については、利用者数が少なく、費用対効果を踏まえると効果的であったとはいえないため、同様の手法で本格運行を行うべきではないと考える。交通手段の確保策については、見直しを図られたい。</p>	
委員会のその他意見		
○平成28年度に実施したアンケート調査の結果を活用し、ニーズの高いサービスから、その実現に向けて取り組まれない。		

事業名		③ 新商店街におけるにぎわい創出事業
取組に対する評価		
評価	①	取り組んだ内容は、有効であった
	2	取り組んだ内容は、有効とは言えなかった
上記の意見・理由	<p>○イルミネーションにより、新商店街「木楽座ストリート」のエリアを視覚的に認識させたほか、街バルなど各種イベントを開催し、商店街の認知度向上に向けた取組みを複合的に推進したことが、加入店舗数の増加につながったものとする。</p> <p>○インバウンド対応セミナーは、商業者のインバウンドに対する意識を向上させる施策として有効である。</p> <p>○地域の清掃活動や緑化活動を、商店街と地域コミュニティが協働して実施したことは、地域における商店街の認知度の向上に寄与したと考える。</p>	
今後の事業実施方針		
今後の方針	1	効果的な取組を実施していることから、さらに発展させるべきである（事業拡大）
	2	特に見直しの必要はなく、現在の取組を継続すべきである（事業継続）
	③	さらに効果的な取組を検討し、内容を見直すべきである（事業見直し）
	4	事業実施を中止すべきである（事業中止）
上記の理由	<p>○インバウンド対応については、現時点において外国人観光客の誘致に向けた具体的な取組みの実施には至っていないため、利用者データの収集・分析を行い、ターゲットとする国や年齢層を明確にした上で、その具体策を講じられたい。</p> <p>○商店街を回遊してもらえらる企画や移動手段の確保について検討されたい。</p> <p>○商店街のブランディングや発信力の向上を目的とした商店街以外の人にも参画するワークショップを開催するなど、商店街に関わってもらえらる「活動人口」を増加させる取組みを検討されたい。</p> <p>○アプリのダウンロード数が少ないため、ダウンロードを促進する新たな取組みが必要であるが、利用が伸び悩むようであれば、別の手法を用いた情報発信に切り替えることが必要である。</p> <p>○イルミネーションや街バルなど各種イベントについては、商店街の個性を活かしたアピールポイントをつくるなど、企画の充実を図られたい。</p>	
委員会のその他意見		
<p>○新たな商店街として立ち上がった「木楽座ストリート」が、本事業の終了後も自立して運営できる集客力のある商店街となるよう、ブランディングや加盟店舗の増加、発信力の強化、人材育成に取り組むことが重要である。</p> <p>○商店街が継続して独自事業を実施するための運営資金については、国の交付金も期限付きであることを踏まえ、クラウドファンディング等を活用することも検討されたい。</p>		

# 関係資料 1

## 地方創生推進交付金事業評価シート

事業名	美術館を核とした賑わい創出・交流人口拡大事業		事業期間	平成 28 年度 ~ 32 年度				
			所管課	いづみアピール課				
交付金事業の概要	<p>○美術館を中心としたエリア価値向上のため、活躍の場を求めるアーティストや地域住民、近隣店舗と協働、連携し、美術館所蔵品等に纏わるパブリックアートを制作し、まちなかに展示する。</p> <p>○市民が文化芸術に気軽に触れ合えるアートイベントを関係者と連携して実施するほか、地域の飲食店等を地域魅力の核として育成するとともに、美術館に隣接する公園、広場等を活用し、地域交流の促進、まちの賑わいの創出につなげる。</p> <p>○交通アクセス、利便性の向上を図るため、国道480号バイパスの開通を機に試験的に「和泉・かつらぎ連絡バス」を臨時運行する。</p>							
事業の背景及び目的	<p>○和泉市久保惣記念美術館周辺地域は、古くからの街並と新たに形成された街並が混在する閑静な環境にあり、地域内には、市民活動拠点の複合施設である和泉シティプラザやカフェ、レストラン等が集積する地区がある。</p> <p>○また、桃山学院大学のほか、桜・紅葉の名所として知られる松尾寺などの景勝地が点在している。</p> <p>○こうした中、美術館を中心に他の魅力的なスポットを複合的にブランディングしていく「和泉・久保惣ミュージアムタウン構想」を推進し、新旧の魅力が融合する観光の振興を図る。</p>							
予算	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)	決算			
	報償費	246,000	委託料	15,720,000				
	食糧費	22,000	使用料	32,000				
	印刷製本費	200,000						
	計	16,220,000						
					内訳	金額(円)	内訳	金額(円)
					報償費	36,000	委託料	15,458,301
					食糧費	3,960	使用料	920
					印刷製本費	49,248		
					計	15,548,429		
平成29年度の取組	取組①名称：和泉市・かつらぎ町広域観光路線実証実験バスの運行							
	取組の内容	<p>○平成29年4月29日から、日曜日・祝日限定で「和泉市・かつらぎ町広域観光路線実証実験バス」を運行。</p> <p>○和泉市(南海バス)と和歌山県かつらぎ町(和歌山バス那賀)から各3便、計6便/日。</p> <p>&lt;観光バスの概要&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・和泉市とかつらぎ町の観光地を巡る。</li> <li>・1日乗車券1,000円(小児500円)</li> </ul>		取組の意図・目的	○和歌山県側からの来訪促進の実証実験として、広域観光路線バスを運行し、将来的な持続性について検証する。			
				取組の実績・成果	○4月29日から3月末までのバス利用実績<利用人数>			
				・合計3,229人(4.3人/便)				
				・うち、1日乗車券の購入者数1,057人				
	取組②名称：パブリックアート及びタウンマガジンの作成							
	取組の内容	<p>○「KUBOSO」ロゴと、歌川国芳の「荷宝蔵壁のむだ書」に描かれたネコを組み合わせたパブリックアートを制作した。</p> <p>(設置場所)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・美術館本館前、父鬼和気線の植え込み部分</li> </ul>		取組の意図・目的	○サイン機能を持ち、フオトスポットとしても活用できるパブリックアートを設置するほか、久保惣記念美術館の所蔵品を紹介するタウンマガジンを作成し、美術館のイメージアップと知名度の向上を図る。			
		<p>○ミュージアムタウンを市内外に広くPRするタウンマガジン「こんこん」を発刊した。</p> <p>(発行部数) 20,000部</p>		取組の実績・成果	○パブリックアートの設置により、美術館の存在感が向上することができた。			
				○京都国立近代美術館など、近畿圏の美術館等にタウンマガジンを配布し、久保惣記念美術館の魅力を広く周知した。				
	取組③名称：イベント「久保惣”大でき”美術館」の開催							
取組の内容	<p>○パブリックアートの設置に合わせて、「久保惣”大でき”美術館」を開催した。</p> <p>(日時)平成30年3月21日(水・祝)10時~15時</p> <p>(場所)久保惣記念美術館</p> <p>&lt;イベント内容&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・パブリックアートのお披露目(除幕式)</li> <li>・大でき展</li> <li>・大でき市</li> <li>・その他(お茶席体験、陶芸体験)</li> <li>・スタンプラリー</li> </ul>		取組の意図・目的	○地域の方々や子どもたちとの協働により、美術館の魅力に触れるイベントを開催し、「美術館のあるまち」としてブランディングを図る。				
			取組の実績・成果	○イベントは、1,078人の参加があり、盛況であった。				
			○スタンプラリーでは、エリア内の施設をポイントに設定し、スタンプ数で抽選会に参加できるなど、周遊につなげる取り組みができた。					
			○地元小学校の協力により展示を行うなど、地域を巻き込んだイベントを実施できた。					

KPI (重要業績評価指標)	交付金対象事業	KPI①: エリア内主要施設への来訪者数			
		現状値 (平成27年度)	目標値 (平成29年度)	実績値	【参考】数年後の目標値 (平成32年度)
		413,220	486,300	447,162	612,000
		KPI②: 和泉市久保惣記念美術館の年間来館者数			
		現状値 (平成27年度)	目標値 (平成29年度)	実績値	【参考】数年後の目標値 (平成32年度)
		23,161	27,000	43,925	30,000
		KPI③: 新規店舗等開業数			
		現状値 (平成28年度)	目標値 (平成29年度)	実績値	【参考】数年後の目標値 (平成32年度)
		0	0	0	3
		総合戦略における位置付け	基本目標	年間観光客数	
数値目標	H22 949,029人 → H31 1,600,000人				
所管課の評価	平成29年度における取組の効果	評価	評価理由		
		B 効果的だった	<p>○パブリックアートの設置とあわせて、「久保惣”大でき”美術館」の開催や、タウンマガジンを発行するなど、複合的に取組むことで久保惣記念美術館の周知及びまちの賑わいの創出に寄与できた。</p> <p>○スタンプラリーの開催により美術館だけでなくエリア内の周遊にも繋げることができた。</p>		
	目標値達成状況にかかる要因分析	達成状況	要因分析		
		2 達成	<p>○美術館開館35周年記念事業として開催した特別展「ピカソと日本美術」の盛況が来館者数の増加に寄与した要因の一つであるが、タウンマガジンの発行やイベントの開催により美術館の周知が図られ、全体的な来館者数の増加につながり、年間来館者数について、目標を達成できた。</p> <p>○エリア内主要施設への来訪者数については、スタンプラリーの開催によりエリア内施設の周遊を図ったが、美術館以外の観光施設については、美術館ほどの大幅な増加とはならず、目標値は達成できなかった。各施設間の移動手段における利便性向上について再検討が必要である。</p>		
交付金対象事業の必要性	評価	評価理由			
	①拡大	<p>○平成29年度に取組んだタウンマガジンの発行やパブリックアートの設置、イベント実施等により、美術館の周知が進んでいるものの、ミュージアムタウンエリア全体のブランディングについては、十分とは言えない。</p> <p>○そのため、平成30年度は交付金を活用して、パブリックアート事業の拡大やモニターツアーの実施に取組むほか、平成31年度以降も、ミュージアムタウンの取組みを継続的に進め、エリアのブランディングやイメージの浸透を図る必要がある。</p>			
平成29年度の取組成果・効果を踏まえた今後の事業展開	<p>【平成30年度の事業展開】</p> <p>○広域観光路線実証実験バスについて、急行便を創設して、利用ニーズの変化を測定し、本格運行について検討する。</p> <p>○パブリックアートをエリア内3箇所に設置し、エリアのブランディングイメージを創出する。</p> <p>○和泉かつらぎ観光路線バスの乗車客を対象に美術館やシティプラザなどをスポットとするスタンプラリーを開催するとともに、その他の観光客を対象とする周遊キャンペーンを実施する。</p> <p>○平成29年度は、美術館に焦点を絞ったタウンマガジンを作成したが、平成30年度についても昨年度発行分と関連性をもたせたタウンマガジンの発行を行う。</p> <p>○新たなエリアの魅力づくりとして特産品の開発を進める。</p> <p>○和泉市の観光地の魅力を旅行会社等に伝えるため、旅行会社の関係者を対象としたモニターツアーを実施する。</p> <p>○ミュージアムタウンの取組の成果について、経済波及調査により効果検証し、来年度以降の事業展開に繋げる。</p>				
	<p>【平成31年度以降の事業展開】</p> <p>○交付金事業の終了後も、ミュージアムタウンに関する取り組みを継続させていくために、学識経験者や地域関係者からなる「和泉・久保惣ミュージアムタウンコンソーシアム」を軸とした推進体制を構築し、和泉市も支援しながら、民間主導の事業展開を図る。</p> <p>○平成30年4月に設立された(一社)泉州ツーリズムビューローとも連携しつつ、アートに関わるワークショップやイベントを通じて来訪促進に繋がる取組を推進する。</p>				



K P I (重要業績評価指標)	交付金対象事業	KPI①： エリア内主要施設への来訪者数			
		現状値 (平成27年度)	目標値 (平成29年度)	実績値	【参考】数年後の目標値 (平成32年度)
		413,220	486,300	447,162	612,000
		KPI②： 和泉市久保惣記念美術館の年間来館者数			
		現状値 (平成27年度)	目標値 (平成29年度)	実績値	【参考】数年後の目標値 (平成32年度)
		23,161	27,000	43,925	30,000
		KPI③： 新規店舗等開業数			
		現状値 (平成28年度)	目標値 (平成29年度)	実績値	【参考】数年後の目標値 (平成32年度)
		0	0	0	3
		総合戦略における位置付け	基本目標	年間観光客数	
数値目標	H22 949,029人 → H31 1,600,000人				
所管課の評価	平成29年度における取組の効果	評価	評価理由		
		B 効果的だった	<p>○平成29年10月に開館35周年記念事業として開催した特別展「ピカソと日本美術」においては、来館者が2万人を超えるなど、美術館への注目が集まる中、これまで美術館を訪れたことのない顧客層に対して美術館をアピールできる広報物(ホームページ、パンフレット)を作成できた意義は大きい。</p> <p>○ホームページは、既存の顧客層である高齢者にとって、わかりやすく、また新規顧客層の取り込みにつなげることができるデザインにすることができた。</p>		
	目標値達成状況にかかる要因分析	達成状況	評価理由		
	2 達成	<p>○特別展「ピカソと日本美術」が好評であったため、美術館の年間来館者数について、目標値を達成することができた。</p>			
交付金対象事業の必要性	評価	評価理由			
	③維持(一部見直し)	<p>○ホームページやパンフレットの多言語化により、今後の訪日外国人の来館を期待できることから、作成した広報ツールについては、定期的に翻訳語の更新を行い、継続的な活用を図る。</p> <p>○展覧会企画をはじめ、音楽ホールや茶室などの美術館内施設を活用したイベントを実施するなど、来館者の増加に向けた事業を多角的に展開し、ミュージアムタウンの取り組みを推進する。</p>			
平成29年度の取組成果・効果を踏まえた今後の事業展開	<p>【平成30年度の事業展開】</p> <p>○各国語版のパンフレットをこれまで配布した国内の美術館等に加え、交流のある海外の美術館、研究所、大学等(国立故宮博物院、ケルン東洋美術館、インディアナポリス美術館等)へも広く配布するとともに、ホームページでもバイリンガルの対応を行っていることを広く周知し、訪日外国人等の来館を促進する。</p> <p>○ホームページに解析ツールを設置し、アクセスがどのような地域、国からなされているかを把握することで、取り組みの成果を継続的に観測し、その結果を今後のホームページ運営に反映させていく。</p> <p>【平成31年度以降の事業展開】</p> <p>○美術館敷地内の音楽ホールや市民ギャラリーでのイベントを充実するほか、茶室を修繕し、活用の幅を広げるなど、美術館の独自の魅力をアピールできるツールをさらに強化する。展覧会と連動したコンサートや茶会などの美術館施設を活かした独自のイベントを実施することで、地域の核となる美術館の魅力をアピールし、来訪を促進する。</p>				

事業名	住み慣れた地域で暮らし続けるための拠点づくり事業		事業期間	平成 28 年度 ~ 30 年度			
			所管課	福祉総務課			
交付金事業の概要	<p>○高齢者等を対象に日常生活で起こるちょっとした困りごとを支援・解決する「地域住民どうしの助けあいの活動」を促進・支援する。</p> <p>○人口が減少している市南部地域(南横山)をモデル地区にして地域と病院やスーパーマーケット、鉄道駅を結ぶデマンド型交通(乗合タクシー)の実証運行を行う。</p>						
事業の背景及び目的	<p>○本市は、過去に人口増加率が府内でも1位、2位を争うなど、和泉中央駅周辺を中心にベッドタウンとして人口増加を続けてきたが、昭和40年代に開発されたニュータウン等では高齢化が進み、独居世帯や空き家等が増加し、地域の絆が薄れつつある。</p> <p>○また、市南部地域では、通勤、通学の時間帯にバスを運行し、公共交通を維持しているものの、交通網は脆弱であり、人口減少が続いている。</p> <p>○これらのことから、地域住民が支えあいながら生活を送ることができる環境を整え、多世代が交流する機会の創出を図るとともに、デマンド型交通による乗合輸送の実証運行を実施するなど、住み慣れた地域で持続的に安心して暮らすことができるコミュニティの形成を目指す。</p>						
予算	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)	決算		
	報償費	300,000	委託料	556,000			
	消耗品費	65,000	会場使用料	60,000			
	食糧費	8,000	複写機借上料	7,000			
	印刷製本費	49,000	補助金	5,355,000			
	計		6,400,000				
				内訳	金額(円)	内訳	金額(円)
				報償費	299,820	委託料	0
				消耗品費	62,208	会場使用料	59,700
				食糧費	4,425	複写機借上料	6,241
				印刷製本費	33,588	補助金	837,356
				計		1,303,338	
平成29年度の取組	取組①名称 : 「地域住民どうしの助けあいの活動」の支援						
	取組の内容	<p>○「地域住民どうしの助けあいの活動」を実施する団体の活動経費に対して補助金を交付し、支援した。</p> <p>(補助対象経費)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事務所賃借料</li> <li>・事務所改装費</li> <li>・活動用備品等</li> <li>・周知用の印刷費等</li> </ul> <p>※補助は、各団体1回限り</p>	取組の意図・目的	<p>○団体の活動に要する経費の一部を補助し、団体の設立や新たな活動を支援する。</p>			
			取組の実績・成果	<p>○2団体に対して、補助金を交付した。</p> <p>【補助金交付団体】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・サポート緑ヶ丘営繕グループ</li> <li>・鶴山台北校区高齢者サポートセンター</li> </ul> <p>【補助内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・活動用備品等…823,316円</li> <li>・周知用の印刷費等…14,040円</li> </ul>			
	取組②名称 : フォーラム及び研修の開催						
	取組の内容	<p>○平成30年度から新たに活動を実施する地域団体を募集するため、「みんなで取組む地域づくりフォーラム」を開催した。</p> <p>(開催日) 平成29年10月1日 (参加者数) 78名</p>	取組の意図・目的	<p>○フォーラムを開催し、市全域に活動団体の取組と当事業の周知を図る。</p> <p>○研修を開催し、新たな人材の確保、育成及び団体間の連携強化を図る。</p>			
		<p>○活動団体を対象に人材育成のための研修を実施した。</p> <p>(開催日) 平成30年3月26日 (参加者数) 22名 (研修内容) 他団体の先進的な取組の紹介</p>	取組の実績・成果	<p>○フォーラムの開催により、当事業の周知がなされ、新団体が平成30年3月に発足した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新規団体: 光明台南校区</li> </ul> <p>○研修で、利用者ニーズが高い移送サービスを提供している団体を招き、取組について講義いただいたことで、団体が移送サービスを検討するきっかけをつくった。</p>			
	取組③名称 : 協議会の開催						
	取組の内容	<p>○「みんなで取組む地域づくり協議会」を開催し、新たな地域団体の募集方法や研修内容について、検討した。</p> <p>(開催回数) 3回</p>	取組の意図・目的	<p>○新たに活動する地域団体の設立を目指し、地域団体等へ働きかけを行う。</p>			
		<p>○和泉市社会福祉協議会と協働で進めている地域住民同士が地域の課題について協議・検討する会議の「協議の場」を活用した啓発を実施した。</p>	取組の実績・成果	<p>○「協議の場」を通じて、新たな団体立ち上げのアプローチを行い、新たに1つの団体が平成30年3月から活動を開始した。但し、当事業の補助金を活用する予定はなし。</p>			

KPI (重要業績評価指標)	交付金対象事業	KPI①: サービス利用者数			
		現状値 (平成27年度)	目標値 (平成29年度)	実績値	【参考】数年後の目標値 (平成30年度)
		94	277	283	357
		KPI②: 高齢者雇用者数			
		現状値 (平成27年度)	目標値 (平成29年度)	実績値	【参考】数年後の目標値 (平成30年度)
		23	72	81	97
		KPI③: 提供サービス数			
		現状値 (平成27年度)	目標値 (平成29年度)	実績値	【参考】数年後の目標値 (平成30年度)
		8	36	29	61
	総合戦略における位置付け	基本目標	町会・自治会や近隣住民と十分にコミュニケーションが取れていると思う市民の割合		
数値目標		H25 42.3% ⇒ H31 50.0%			
所管課の評価	平成29年度における取組の効果	評価	評価理由		
		B 効果的だった	<p>○団体が補助を活用してチラシを作成するなど、事業周知が充実し、サポーター数の増加や団体の活性化につながった。</p> <p>○研修で、移送サービスについて紹介したことで、市内の活動団体においても移送サービスの実施について、検討され始めた。また、団体同士の横の繋がりを強化することができた。</p> <p>○新規団体の募集に向け、町会連合会、校区社会福祉協議会といった関係機関に対し周知を行ったほか、各小学校区に設置されている協議の場においても新規団体募集の周知を行った。結果として、本事業の補助を活用していないものの、新たに事業を実施する団体が平成30年3月に発足した。</p>		
	目標値達成状況にかかる要因分析	達成状況	要因分析		
		3 未達成	<p>○各団体の活動が地域で認知され定着してきたことにより、サービス利用者数や高齢者雇用者数の増加に繋がった。</p> <p>○提供サービス数については、目の不自由な方への代筆や留守宅の庭木・花等の水やりなど新たなニーズに対応したことにより昨年度よりは増加したものの、人材の確保や、ノウハウの蓄積が十分にできず、目標値を達成することができなかった。</p>		
	交付金対象事業の必要性	評価	評価理由		
		②維持(現状)	<p>○活動団体の取組みについて認知度が高まってきたことから、その取組みを他の地域にも普及させ、新たな活動団体の設立をめざす。</p> <p>○活動団体の支援のための補助制度及び人材育成のための研修を引き続き実施することが必要である。</p>		
平成29年度の取組成果・効果を踏まえた今後の事業展開	<p>【平成30年度の事業展開】</p> <p>○新たに事業を実施する団体に対し、活動に係る経費の一部を補助する。</p> <p>○人材確保・育成のための研修を活動団体に対して実施し、支援する。</p> <p>○当事業の成果として、地方創生推進交付金対象期間終了後も地域の助け合い活動を始めようとする団体が立ち上げの参考にできる事業報告書を作成する。</p> <p>【平成31年度以降の事業展開】 (既存団体へのサポート)</p> <p>○地方創生推進交付金対象期間終了後は、本補助金を廃止する予定のため、活動団体に、「和泉市あなたが選ぶ市民活動支援事業(ちよいず)」等の補助制度の活用を促し、活動の継続をサポートする。</p> <p>(新規団体の設立)</p> <p>○新規団体設立に向けた地域の自発的なきっかけを促すため、「協議の場」を通じて各地域の状況を把握した上で、周知を行う。</p> <p>○新たに団体を立ち上げようとする団体に対し、事業報告書等を用いて団体設立をサポートしていくとともに、上記補助金の案内を行う。</p>				

事業名	住み慣れた地域で暮らし続けるための拠点づくり事業		事業期間	平成 28 年度 ~ 30 年度		
			所管課	道路河川室		
交付金事業の概要	<p>○高齢者等を対象に日常生活で起こるちょっとした困りごとを支援・解決する「地域住民どうしの助けあいの活動」を促進・支援する。</p> <p>○人口が減少している市南部地域(南横山)をモデル地区にして地域と病院やスーパーマーケット、鉄道駅を結ぶデマンド型交通(乗合タクシー)の実証運行を行う。</p>					
事業の背景及び目的	<p>○本市は、過去に人口増加率が府内でも1位、2位を争うなど、和泉中央駅周辺を中心にベッドタウンとして人口増加を続けてきたが、昭和40年代に開発されたニュータウン等では高齢化が進み、独居世帯や空き家等が増加し、地域の絆が薄れつつある。</p> <p>○また、市南部地域では、通勤、通学の時間帯にバスを運行し、公共交通を維持しているものの、交通網は脆弱であり、人口減少が続いている。</p> <p>○これらのことから、地域住民が支えあいながら生活を送ることができる環境を整え、多世代が交流する機会の創出を図るとともに、デマンド型交通による乗合輸送の実証運行を実施するなど、住み慣れた地域で持続的に安心して暮らすことができるコミュニティの形成を目指す。</p>					
予算	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)	決算	
	委託料	5,500,000				
	計	5,500,000				
			内訳	金額(円)	内訳	金額(円)
			委託料	3,561,940		
			(うち運行分)	(151,300)		
			(うち導入支援分)	(3,261,600)		
			(うち標識等設置分)	(149,040)		
			計	3,561,940		
取組①名称 : 南横山校区デマンド型交通実証運行事業						
取組の内容	<p>○地元住民や関係機関との調整を行いながら、デマンド型交通の運行に係る運行ルートの決定等必要な準備を行った。</p> <p>○タクシー事業者に業務委託し、デマンド型交通を運行した。</p> <p>【実証運行の概要】          運行期間:平成30年1月4日~3月23日(毎日)          運行方式:運行ルート、停留所、ダイヤを設定し、予約があった場合に運行          使用車両:セダン型タクシー(乗客定員4人)          運賃:区間制 600円・500円・400円                    小学生以下等の割引有          ダイヤ:平日5便、土休日4便          配車費用:1台あたり2,970円から運賃収入を控除した額。</p>		取組の意図・目的	<p>○買い物や通院等の日常生活に必要な移動手段として、新たな輸送サービスであるデマンド型交通の実証運行を行い、地域公共交通の有用性を検証する。</p>		
			取組の実績・成果	<p>○デマンド型交通の運行及びアンケート調査の実施により、地元住民の利用実態など、本格運行の検討に向け必要なデータを取得することができた。</p> <p>&lt;利用者数及び配車台数&gt;          ・平均利用者数38人/月          ・平均配車台数23台/月</p> <p>(内訳)利用者数/配車台数/配車可能台数          1月:27人/17台/262台          2月:43人/28台/262台          3月:45人/25台/216台          合計 115人/70台/740台</p> <p>&lt;運行経費&gt;          ・1台あたりの配車単価:2,160円          (配車単価2,970円-運賃収入の平均810円)</p>		

KPI (重要業績評価指標)	交付金対象事業	KPI①: サービス利用者数			
		現状値 (平成27年度)	目標値 (平成29年度)	実績値	【参考】数年後の目標値 (平成30年度)
		227	277	283	357
		KPI②: 高齢者雇用者数			
		現状値 (平成27年度)	目標値 (平成29年度)	実績値	【参考】数年後の目標値 (平成30年度)
		57	72	81	97
		KPI③: 提供サービス数			
		現状値 (平成27年度)	目標値 (平成29年度)	実績値	【参考】数年後の目標値 (平成30年度)
		21	36	29	61
	総合戦略における位置付け	基本目標	町会・自治会や近隣住民と十分にコミュニケーションが取れていると思う市民の割合		
	数値目標	H25 42.3% ⇒ H31 50.0%			
所管課の評価	平成29年度における取組の効果	評価	評価理由		
		B 効果的だった	○デマンド交通の実証運行を計画通り実施し、運行内容やアンケート等の検証に必要なデマンド交通の需要や満足度、市民の外出機会の変化等の必要なデータを取ることができた。		
	目標値達成状況にかかる要因分析	達成状況	要因分析		
		/		/	
交付金対象事業の必要性	評価	評価理由			
	②維持(現状)	○本事業に係る実証運行の取り組みは平成29年度で終了したが、その結果を基に、本格運行の可否や実施方法について検証する必要がある。			
平成29年度取組成果・効果を踏まえた今後の事業展開	<p>【平成30年度の事業展開】</p> <p>○本格運行の可否等について決定するため、平成29年度の利用実績やアンケート結果を基に、利用者の意識や地域住民の意向等も含めて実証運行の評価を行う。</p> <p>○和泉市地域公共交通網形成計画(平成30年度策定予定)に基づいた公共交通ネットワークとの整合性を図り、評価結果を踏まえて、関係者・住民の意見を得ながら、本格運行に移行するか否かの判断を行う。</p>				

事業名	新商店街におけるにぎわい創出事業		事業期間	平成 29 年度 ~ 31 年度					
			所管課	商工労働室					
交付金事業の概要	<p>○地域経済の活性化、集客力の向上、観光地等誘致施設の創出に向けた取り組みとして、商店街向けにインバウンド対応セミナーを実施するほか、イルミネーションや街バル等のイベントを開催し、情報発信のためのホームページやアプリの制作を行う。</p> <p>○地域コミュニティの創出に向けて、商店街を中心に市内小中学生等とともに緑化活動を行う。</p> <p>○商店街を引っ張っていくリーダーを育成するためのセミナーやフォーラムを開催し、人材育成及び商店街組織の強化を図る。</p>								
事業の背景及び目的	<p>○ホテルルートイン和泉の開業により訪日外国人が増加する中、和泉中央線を軸にした新商店街「木楽座ストリート」が結成された。</p> <p>○商店街や小規模・個人経営者を育成、振興することにより、インバウンドや交流人口の拡大を図り、地域経済の活性化、ひいては、沿道全体のブランド化、エリア価値の向上を目指す。</p>								
予算	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)	決算	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)
	報償費	1,183,000	役務費	20,000		報償費	544,800	役務費	0
	消耗品費	40,000	使用料	170,000		消耗品費	21,064	使用料	81,000
	食糧費	2,000	負担金	26,427,000		食糧費	1,599	負担金	26,424,535
	印刷製本費	390,000				印刷製本費	72,036		
	計		28,232,000			計		27,145,034	
平成29年度の取組	取組①名称：まちな賑わい創出								
	取組の内容	<p>○商業者向けにインバウンド対策セミナーを開催した。</p> <p>・開催回数:3回、参加人数:142人</p>		取組の意図・目的	<p>○接客術等のノウハウを商業者に伝え、訪日外国人の来訪を促進する。</p> <p>○イベントの開催等により、まちな賑わいを創出し、新商店街「木楽座ストリート」の認知度向上を図る。</p>				
		<p>○新商店街の賑わいを創出する各種イベントを開催した。</p> <p>&lt;イベント内容&gt;</p> <p>・街バル</p> <p>・和泉中央線沿道でのイルミネーション</p> <p>・キッズダンスフェスティバル・子供コンサート</p> <p>・特産品を活用した体験型イベント(さをり織り体験等)</p>			取組の実績・成果	<p>○接客の仕方や免税店登録の仕方等を商業者に伝え、商業者のインバウンド対応を推進することができた。</p> <p>○街バルは、35店舗が参加し、180万円の売り上げで盛況であった。</p> <p>○イルミネーションの実施により、木楽座ストリートの認知度を上げることができた。</p>			
	取組②名称：ホームページ及びスマートフォン向けアプリの制作								
	取組の内容	<p>○木楽座ストリートのホームページ及びスマートフォン向けアプリを作成し、イベントや店舗情報等を掲載した。</p> <p>・アプリは、QRコードの読み込みでガチャができる仕組み(※)を導入した。</p> <p>(※)店舗のQRコードを読み、クーポン等が当選する。</p>		取組の意図・目的	<p>店舗やイベント情報を広く発信し、商店街エリアへの集客力の向上を図る。</p>				
					取組の実績・成果	<p>○アプリダウンロード数 743件</p> <p>○QRコード読込数</p> <p>店内:3,987件、店外:346件</p> <p>フリーQR(※1日1回のみガチャ分):2,095件</p>			
	取組③名称：地域コミュニティの創出								
	取組の内容	<p>○木楽座ストリート沿道の清掃を実施した。</p> <p>・参加者数:36名</p> <p>○木楽座ストリート会員や児童、保護者等が協力し、花で街を彩る緑化活動の企画「みなはつフラワープロジェクト」を実施した。</p> <p>・参加者数:児童15名、保護者15名、他22名</p>		取組の意図・目的	<p>○商店街と地域がつながる新たな地域コミュニティを創出し、魅力あるまちづくりを進める。</p>				
					取組の実績・成果	<p>○地域を巻き込んだ緑化活動を実施し、商店街の認知度を高めることができた。</p>			
	取組④名称：人材の育成								
取組の内容	<p>○和泉市の主催で、商店街の人材を育成するためのフォーラムやセミナーを開催した。</p> <p>&lt;人材育成フォーラム&gt;</p> <p>講演内容:「隠れた地域資源を発掘し、皆を巻き込むまちづくり」等</p> <p>参加者数:101人</p> <p>&lt;人材育成セミナー&gt;</p> <p>テーマ:商店街の次世代リーダーを発掘・育成</p> <p>参加者数:延べ68人</p>		取組の意図・目的	<p>○新商店街の店主等を対象に、セミナーやフォーラムを開催し、商店街を引っ張っていくリーダーを育成する。</p>					
				取組の実績・成果	<p>○必要とされる商店街になるためには、何が必要で、何ができるかを考えるきっかけにすることができた。</p> <p>○セミナー参加者同士で連帯感が生まれ、連携して商店街を引っ張っていく人材を発掘・育成することができた。</p>				

KPI (重要業績評価指標)	交付金対象事業	KPI①: 他府県からの来訪者数			
		現状値 (平成28年度)	目標値 (平成29年度)	実績値	【参考】数年後の目標値 (平成31年度)
		0	6,000	5,130	12,000
		KPI②: 新規創業数			
		現状値 (平成28年度)	目標値 (平成29年度)	実績値	【参考】数年後の目標値 (平成31年度)
		0	2	5	5
		KPI③: 平成28年度対比のインバウンド買物客数が向上した店舗数			
		現状値 (平成28年度)	目標値 (平成29年度)	実績値	【参考】数年後の目標値 (平成31年度)
		0	3	1	15
	総合戦略における位置付け	基本目標	市内の商工業に活力があると感じる市民の割合		
数値目標		H25 19.3%→H31 25.0%			
所管課の評価	平成29年度における取組の効果	評価	評価理由		
		B 効果的だった	<p>○イルミネーションや街バルの実施により、まちの賑わいを創出することができ、木楽座ストリートを広く周知することができた。</p> <p>○ホームページとアプリを導入したことにより、「木楽座ストリート」の情報を広く発信することができるようになった。</p> <p>○「木楽座ストリート」の認知度が向上し、加入店舗数も増加した。</p> <p>・店舗件数: 100件 (H29.4.1現在) ⇒ 155件 (H30.4.1現在)</p> <p>○沿道で新たに5店舗の出店があり、エリアの活性化や沿道のブランド力の向上に寄与した。</p>		
	目標値達成状況にかかる要因分析	達成状況	要因分析		
	3 未達成	<p>○イベントの実施等による沿道の魅力創出が、集客につながることへの期待感を高め、新規創業数の増加につながったと考えられる。</p> <p>○他府県からの来訪者数が目標値に達成しなかった主な要因は、事業実施が遅かった(街バルなどの事業実施が年度後半の11月以降であった)ことや周知不足が考えられる。</p> <p>○おもてなしや免税等についてインバウンド対応セミナーを開催し、受講者から一定の評価を得たものの、事業者が実践するまでには至らず、インバウンド買い物客数の向上につなげることができなかった。</p>			
交付金対象事業の必要性	評価	評価理由			
	②維持(現状)	<p>○商店街のブランド力向上及び浸透のため、イルミネーションや街バルの取り組みを一過性のものにせず、継続して取組む必要がある。</p> <p>○また、商店街の活性化には、人材の発掘・育成が必要不可欠であり、取組が始まったところで十分ではないことから、商店街リーダーの育成も継続して実施していく必要である。</p>			
平成29年度の取組成果・効果を踏まえた今後の事業展開		<p>【平成30年度の事業展開】</p> <p>平成29年度の事業を実施したことで商店街組合として、一定の組織化ができた。30年度については、組織としてひとつの目的を掲げ、各事業を実施していく。</p> <p>具体的には、すべての事業において「インバウンドの取り込み」を主眼におき各事業を行う。</p> <p>また、組織として自立できる体制がまだまだ整っていないことから、独自事業等による運営資金の調達などの助言を行っていく。</p> <p>【平成31年度の事業展開】</p> <p>平成31年度も引き続き、インバウンドの取り込み対応を主眼におき、事業を実施していく。</p>			

## 関係資料 2

### 1 開催経過

回	日 時	内容
第1回	5月7日(月) 午後2時	・委員の委嘱、諮問 等 ・評価対象3事業の担当課説明及び質疑応答
第2回	5月28日(月) 午前9時30分	・評価対象3事業の評価

※答申は、委員長取りまとめの後、各委員の持ち回りによる。

### 2 委員名簿（敬称略）

役 職	所 属	氏 名
委員長	大阪府立大学 大学院人間社会システム科学研究科 教授	下村 泰彦
副委員長	桃山学院大学 社会学部 准教授	上野 淳子
委員	和泉商工会議所 副会頭	山下 隆也
委員	池田泉州銀行 和泉支店 支店長	山中 康史
委員	株式会社KADOKAWAビジネス・生活文化局 関西ウォーカー編集長	篠原 賢太郎

### 3 和泉市外部評価委員会規則（平成24年和泉市規則第53号）

（趣旨）

第1条 この規則は、和泉市附属機関に関する条例（昭和32年和泉市条例第43号）第2条の規定に基づき、和泉市外部評価委員会（以下「委員会」という。）の組織及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。

（委員会の設置）

第2条 委員会は、別表に定めるところにより、行政外部の第三者視点からの評価、検証等を行う市の施策又は事業ごとに設置することができる。

（担当事務、組織等）

第3条 委員会の名称、担当事務、組織等は、別表に定めるとおりとする。

2 委員は、学識経験者その他専門的な観点から評価を行う知識経験を有すると市長が認める者のうちから、市長が委嘱する。

（任期）

第4条 委員の任期は、委嘱のあった日から諮問に係る会議が終了した日までとする。た

だし、再任を妨げない。

(委員長及び副委員長)

第5条 委員会に委員長及び副委員長各1人を置き、委員の互選により定める。

2 委員長は、会務を総理し、委員会を代表する。

3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるときはその職務を代理する。

(会議)

第6条 委員会の会議は、委員長が招集する。ただし、委員長が選任されていない場合その他委員長が招集できない場合は、市長が招集する。

2 委員会は、委員の定数の半数以上の委員が出席しなければ会議を開くことができない。

(関係者の出席)

第7条 委員長は、必要と認めるときは、委員以外の者を会議に出席させて意見を聴くことができる。

(庶務)

第8条 委員会の庶務は、行政評価担当部署において処理する。

(補則)

第9条 この規則に定めるもののほか、委員会の運営について必要な事項は、委員長が定める。

別表(第2条関係)

委員会の名称	担当事務、組織等
和泉市まち・ひと・しごと創生総合戦略及び和泉市総合計画に係る事務事業の評価等に関する外部評価委員会	(1) 担当事務 和泉市まち・ひと・しごと創生総合戦略及び和泉市総合計画に係る事務事業の評価、検証等に関すること。 (2) 委員定数 5人以内

#### 4 事務局

市長公室 政策企画室